

宿題のやり方

●生徒達が提出する宿題を見ると、何のために時間を費やしたのだろうかと疑問を抱かざるを得ないものが多いのに驚きます。具体例を挙げて少し述べてみましょう。

●やりっ放し型 必ず答え合わせをするようにと指示が出ているにもかかわらず、提出する間際になってあわてて答え合わせをしている生徒です。宿題をやつてこないよりはましですが、学力の伸長は望めないでしょう。自分がやっていることが正しいのか誤りであるのかのチェックがない訳ですから、できる問題のみを何度も繰り返すこととなります。分からない問題は、そのまま放置。これでは、時間を費やして勉強しても自己満足に過ぎません。

●誤り繰り返し型 最悪の勉強です。新出事項の反復練習の宿題のときに起こる事態なのですが、誤った文章を何度も書き続けたり、誤ったやり方を繰り返しやってしまう場合です。これは最悪です。なぜなら、何度も繰り返すことによって、誤った知識や方法を身につけることになってしまふからです。

●〇×型 これは一応は答え合わせをやっているが、ただ単に〇と×をつけただけという生徒です。この型の生徒は、授業で受けた解説を見直したり、解答の解説を読むというよう

な作業を全くやりません。ただ、できたかできないかを確認しているだけです。これでは、やりっ放し型の生徒と大差はありません。

●塾に通っている以上、成績を伸ばしたくない生徒など存在しません。誰しもできるようにしたいと考えているはず。それならば、まず、身近な勉強のやり方から改善すべきです。復習の宿題ならば、一問一問きちんと答え合わせをし、誤ったならば、なぜ誤ったのかを考え直し直すことです。この作業は確かに面倒くさいし、時間もかかります。しかし、時間がかかるからこそ、本人の頭が働いている。つまり、本人が考えていることとなります。この



本人が自分で考えて納得する過程こそ学力を伸ばす原点です。また、納得ができなかったならば、次回の授業で必ず質問するべきです。最後に、できなかった問題や誤った問題には必ずチェックを入れて復習をしなければなりません。納得しただけではできるようにはならないのです。最後に定着させるという作業が必要なのです。この納得し、定着させるという作業を通して学力は伸びていくものなのですから。

(村上)

脳が溶ける？(5)

●今回は運動の話から。クラスに一人ぐらいは、運動神経抜群の奴がいる。足は速いし、何をやっても上手い。何か部活に入っているかと聞け

ば、中学・高校と文科系の部活ですという。一生懸命やって、そこそこやれない人から見れば、何ともうらやましい。これをもって生まれた身体的能力という。一方で、ほとんど勉強しないし、本も読まないくせに、やたら勉強が出来る奴がいる。「絶対家ではやっているはずだ。」と思って、親に聞いてみると机に向かっているのを見たことがないという。授業中に適当に聞いているだけで、分かってしまうのだ。懸命に努力しているのに、なかなか伸びない人からは、うらやましくて仕方がない。これも、もって生まれた能力というのだろう。ただ、勉強に関しては、家族内で知的な会話があるとか、将棋などの知的なゲームをやっていたとか、いわゆる勉強以外で脳を使う環境が小さい時から備わっていたということはあるはずだ。

●ところで、何もしないのに秀でた人がいる一方で、ほとんどの人は、そうではない。やらなければいけないことでも、やりたいことでもきちんと努力しなければ上達しない。努力の仕方個人差があつて、こうすればいいというもの自分で気付き工夫できる人もいるし、全く成果の出ないままダラダラと続ける人もいる。勿論、努力の仕方、練習方法、学習方法に唯一絶対のものがある訳ではないが、それでも望ましい一定のラインというのはあつて、それを身につけられるかどうかは、得られる成果と大きな関わりがあることは間違いない。

●さて、人は皆、学業を終えると何らかの職に就かなければならない。心から望むやりたいことがあつて、それを職業として選択し、打ち込

めて、更に生活も成り立つという人はよし。何の問題もなからう。でも、大半の人はそうではない。自分に向いているであろうと思われるもの、これなら頑張れるかなと思われるものを選んで社会に入つて行くしかないのだ。そしてそのとき、先程述べた運動や勉強の体験とその技量が大きく影響する。話を勉強に絞つて言えば、こういうことだ。勉強は基本的には面白くない。やらざるをえないからやっているだけと思つている人も多い。しかし、やつていく中で、無意識のうちに養われるものがある。「心がときめく程の面白さはないが、やる時はきちんとやる。」「字は丁寧に速く書く。」「分からないところは、徹底的に調べる。」「目標に向かって計画を立てて継続する。」「空き時間を見つけて、有効に利用する。」「面白くてたまらないということではないが、決してイヤではない。」「こういう状態が安定的に得られたとき、実はこれが働く上で大きな力となるのだ。(以下次号)

(小林(健))

保健室便りを読もう！ (私的な反省に代えて)

●私達の教室の机の中からは、テキスト以外の忘れ物も出てきます。ごくまれに、小学校・中学校の先生方が書かれた「通信」類が出てきます。「〇年〇組通信」や「保健室便り」等です。

私は目を皿のようにして読み入ります。手作りの温もりと、もう戻れない日々の懐かしさとを

感じながら。

●さほど真面目でも不真面目でもなかった男子生徒の頃の自分にとつて、「通信」類は、なぜかカバンの中に備蓄され、たまに緊急メモ用紙として使われるか、季節の終わり頃にアコーデイオンのような姿で発見されるプリント類のひとつであったかもしれせん。今、猛省しております！自分がこうして発信する側になって初めて分かったことばかりです。あの頃の先生方、プリントたち、本当にスママセン！

●さて、忘れ物の通信類(私にとっては何れも「忘れ物」ですが、本当によいことが書かれています)と思います。先日偶然出会えた「保健室便り」には、季節のイラストとともに、養護教諭(いわゆる保健室の先生)の方のお話や、給食のメニューを立案なさる栄養士の方からのメッセージなどもあり、それぞれの専門分野に特化して、子供達を支えたいという熱意が強く感じられるものでした。

●特に養護教諭の方の「低体温問題」についての記事は、以下のような内容で、何名かの生徒の顔が浮かぶほど、子供達の現状を的確に表しているものでした。「『早寝、早起

き、朝ごはん』は、何十年も昔からの標語。そして常識。育ち盛りのきみ達には、たっぷり朝日を浴びて、



体育でたっぷり汗を流して、ぐっすり眠れる夜を迎えてほしい。しかし、二十四時間流れるテレビ番組、終わりのないゲーム、皆が寝静まつてからの秘密のネット等、早寝や朝ごはんの価値など吹き飛ばしてしまう刺激を、大人が次々

と横流ししている。テレビやパソコンや携帯の、電磁波という見えない影の下、『刺激』と引き換えに『睡眠時間』が削られている。」

●不規則な生活リズム、その結果としての体温の不全・不調、その状態が続いてしまうことの危険性を、中学生にも理解してほしいという思いの伝わってくる力強い文面でした。

●現実的には、文科省だけが『子供は早寝早起き』という旗をいくら振っても、総務省がテレビ放映を、経済産業省がゲーム販売をどこまで考えてくれるのか(規制で解決できる範囲は実に限られています)、社会や地域や学校よりも前に、家庭内の揺れない価値観は、親としての責任は、等等、様々な背景と要素が絡んでいると思います。

●しかし、このように複雑な構造の中に置かれているからこそ、自分にできる範囲のことで、子供達を支えようと努力なさっている人の熱に、間接的にでも触られたことは幸運でもあり、我々も負けてはいられないと、改めて身の引き締まる思いでした。(五日市)

FEELING TRIP

●私は旅が好きだ。以前ゴールデンウィークを利用して、日本から離れた国を訪れた。コスタリカという国だ。なかなか聞きなれない国だと思いが、しっかりとした信念を持っている国だと感じた。コスタリカという国について少し説

明を加えると、アメリカ中部に位置する永世中立国で、国土面積は九州地方と四国地方を足したくらいである。国家予算の内訳の

中で国立公園や自然を維持することに費用を投じている。国土の約4分の1を国立公園が占有し、地球全体の約5%の種類の生物が生息している。まさに自然と隣接した国だ。



●私がこのコスタリカという国に信念を感じたのは、国が打ち出している政策『人間は自然に生かされている』という考えがはつきりと明確であるということ。また、国民が裕福とはいえないが、『生きることに幸せと感謝と敬意を払っている』ということ。どこの国からやって来ようが、我々をお客様として接しているというよりは、昔からの近所付き合いのような感じで、声をかけてくる。それも温かみがある。

●食事をしようと、あるレストランに入った時も、店員からの第一声が日本語の意味でいう、「久しぶりだね」という言葉。「いらっしやい」や「ようこそ」、「こんにちは」ではない。どうやら我々は同じ地球に住んでいるのだから、どこかですれ違っている、あるいは、挨拶くらいは無意識に交わしている、という感覚があるらしい。だから、変に気を使うというわけがなく、コスタリカの人間からすれば、同じ地球の住人という意識があるようだ。

●このような体験をただだけでも、旅をして良かったと感じる。旅には何か感覚を呼び覚ます媚薬があるように思う。海外であろうと、日本国内であろうと、近隣であろうと、日常とは違

った心地よい違和感がある。テレビや映画、DVDで見るだけでなく、その場所へ行ってみて、体で感じる。その場所の空気をライブで感じる。極上のフルコースを食べた以上の満腹感が味わえるはずだ。

●昨年の雑誌だったと思う。「旅」をめぐるアンケート調査を実施していた。「あなたは何のために旅をしますか」という質問に対して、さまざま解答があったが1位は「今までにない経験をしたいから」という結果であった。「経験したい」という人間が多いということは、未知のものに触れたい、感じたいという意識が人間にはあるということの意味ではないか。

●きみたちの中には今年、中学3年生や高校2年生でこれから修学旅行を迎える生徒も多いことだろう。是非とも、あらゆる文化、生活様式、歴史をきみの目で見極め、手で触れ、肌で感じてもらいたい。古いものであろうと、新しいものであろうと、感じることは旅の醍醐味である。そして、その感触はこれからのきみが生きる上での大きな財産になるはずだ。(松尾)

▲▼▲継続希望の方へ▲▼▲

▶卒業や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。在籍していた教室までご連絡下さい。

新星堂他全国書店にて
好評発売中!!

■愛の壁■

—お父さんお母さん

あなたの愛は子供に届いていますか
著者：小林 憲右
2006年5月1日発行 (1,500円)